



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

第20回学術大会・総会 20回記念講演

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

2004年発足からのJAMDの歴史

辻本 恭久

日本大学松戸歯学部

2004年(平成16年)12月4日、日本顕微鏡歯科学会(Japan Association of Microscopic Dentistry, JAMD)は日本マイクロスコープ研究会(仮称)として発足した。発会式は100名に満たない人数であったが、この20年間で会員数は約2,200人となった。第3回学術大会から日本顕微鏡歯科学会として活動するようになり、2019年からは一般社団法人としての学会活動がスタートした。マイクロスコープ下での精密な歯科治療の普及を目指し、学会員の少ない地域でのサテライトセミナー、症例検討会(現在のシーズズセミナー)、動画編集セミナー、歯科衛生士セミナーなどを行ってきた結果、現在では若い先生方が開業するときに、最も備えたい機器の一つとなっている。マイクロスコープの普及率は、発足当時はほんの数%であったが、現在は20%に迫るとのデータがある。厚生労働省の歯科治療におけるマイクロスコープやCBCTに対する評価が変化をもたらし、その結果歯科診療保険点数に追加されたことで、マイクロスコープが普及するのに役立った。また、歯科医師国家試験の出題基準に加えられたことで、大学教育においてもマイクロスコープを用いた治療を教育する義務が生じた。そのことも相まって、日本においてはマイクロスコープの普及が増えたとし、JAMDの学会員も増加したと考えている。米国においてはspecialist courseではマイクロスコープの教育を義務化していたが、学部学生には教えていないことが、米国での普及が伸びない原因の一つだとAssociation of Microscope Enhanced Dentistry(AMED)から情報を得ている。JAMDはAMEDと友好的関連学会として2019年からお互いの会員がお互いの学会で数名発表することで交流している。JAMDの学会認定医制度は2009年からスタートし、11月26日、12月3日に試験が行われた。また認定歯科衛生士については2012年からスタートし、11月8日、17日に試験が行われた。その後順調に認定歯科医、認定歯科衛生士の数は増加している。学会の機関誌であるThe International Journal of Microdentistry(MICRO)は2009年にAMEDがアメリカクインテッセンスと発刊したが、諸事情により2012年からはJAMDが日本クインテッセンスより、出版することになった。すでに12年が経過したが、2021年念願のJ-stageに掲載されることになった。掲載文献の引用件数が増えればインパクトファクターが付くので皆さんの協力を仰ぎたい。学会が発足して20年経過し、会員数が増加していることは喜ばしいことではあるが、学会のさらなる発展のために、会員一人一人がマイクロスコープを使用した治療の向上に努め、国民の健康に寄与していかなければならない。

略歴

1955年3月20日生まれ

1973年 東邦大学付属東邦高校卒業

1979年 日本大学松戸歯学部卒業

1983年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了 歯学博士

1983年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 助手

1986年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 専任講師

1987年～1989年 米国 Forsyth Dental Center 客員研究員

1995年 日本大学大学院松戸歯学研究科 合教員

